

公衆衛生看護方法論

| | | | |
|--------------|--------------------------|--------|---------------------|
| 責任者・コーディネーター | 地域包括ケア講座 大澤 扶佐子 准教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 地域包括ケア講座、人間科学科心理学・行動科学分野 | | |
| 対象学年 | 3 | 区分・時間数 | 講義 6時間 演習 16.5時間 |
| 期 間 | 後期 | | |
| 単 位 数 | 1単位 | | |

・学習方針（講義概要等）

地域における看護活動の具体的な方法として、個人・家族・集団、地区組織を単位とした住民の健康課題の支援方法を学ぶ。保健指導の基本となる乳幼児の発達アセスメント、家庭訪問の基本、保健行動理論を用いた行動変容につながる保健指導および健康教育の基本的考え方に基づく事業の展開など幅広く学修する。そして、母子保健における家庭訪問、健康診査、生活習慣病対策における健康相談、健康教育、グループ支援の方法を実践的に学修する。

・教育成果（アウトカム）

公衆衛生看護活動の対象の中の個人・家族・集団に対し、事例をもとに対象の生活背景と健康課題との関連を捉え、保健行動理論等を活用しながらニーズに即した保健指導の在り方を検討できる。家庭訪問・健康相談のロールプレイ、小集団に対する健康教育の企画・実演を通して、保健指導技術の基本的な展開ができる。また、地区組織など地域の社会資源の役割と協働した支援のあり方がわかる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3, 4, 5, 7, 8

・到達目標（SBO）

1. 母子の事例の生活背景・発達課題等を捉え、家庭訪問計画を立案し、対象者の反応を捉えながら展開できる。
2. 健康相談の事例に対し、限られた情報から健康課題と支援の優先順位を整理し、保健指導できる。
3. 事例の地区の健康課題を捉え、小集団に対する健康教育を企画し、保健指導案にそって展開できる。
4. 家庭訪問・健康相談・健康教育において、適切な教育媒体を選択又は作成し、わかりやすく保健指導できる。
5. 相談内容に対して、地区組織等フォーマル・インフォーマルな社会資源の活用を検討できる。
6. 家庭訪問・健康相談・健康教育の内容を適切に記録・評価をし、今後の保健指導の方向性を考えることができる。
7. 家庭訪問や健康相談・健康教育の対象者のニーズの把握や支援を促すために、コミュニケーション技術や行動変容のための理論の活用を試みることができる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 3-B 実習室、 (欠) マルチ 4-A 講義室

【講義・演習】

| 月日 | 曜日 | 時限 | 講座(学科) | 担当教員 | 授業内容/到達目標 |
|-----|----|----|----------|------------|---|
| 9/1 | 水 | 3 | 地域包括ケア講座 | 松岡 真紀子 助教 | <p>家庭訪問の展開 1 家庭訪問演習の進め方、訪問する母子事例の紹介、母子健康手帳の活用の仕方、訪問計画の立案の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子健康手帳の内容を把握できる ・ 訪問計画の立案の仕方がわかる |
| 9/1 | 水 | 4 | 地域包括ケア講座 | 松岡 真紀子 助教 | <p>家庭訪問の展開 2 家庭訪問記録の書き方、訪問計画立案の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問記録を書く際の注意点がわかる ・ 事例の発達課題と予測される健康課題を捉え、優先順位を考え訪問計画を立案できる |
| 9/7 | 火 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 | <p>健康教育の展開 1 健康教育演習の進め方、教育媒体の特徴と使用の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各教育媒体の特徴が分かり、対象・目標に応じて媒体の選択の仕方がわかる ・ 教育媒体作成時の注意点がわかる |
| 9/7 | 火 | 4 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 | <p>健康教育の展開 2 保健指導案の書き方と教材研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康教育の設計図としての保健指導案の書き方を理解できる ・ グループで事例の地区の健康課題を捉え教材研究の課題を設定できる |

| | | | | | |
|------|---|---|-----------------|--|---|
| 9/13 | 月 | 2 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 家庭訪問の展開3 母子の家庭訪問のロールプレイ <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安楽・正確に身体計測できる ・訪問計画に基づき情報収集し、内容のアセスメントから母子健康手帳等を活用しながら保健指導できる ・家庭訪問の相互評価ができる |
| 9/13 | 月 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 家庭訪問の展開4 母子の家庭訪問のロールプレイ <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安楽・正確に身体計測できる ・訪問計画に基づき情報収集し、内容のアセスメントから母子健康手帳等を活用しながら保健指導できる ・家庭訪問の相互評価ができる。 ・訪問結果を簡潔に分かりやすく記録できる |
| 9/14 | 火 | 3 | 人間科学科心理学・行動科学分野 | 相澤 文恵 教授 | 行動科学理論の保健指導への応用 <ul style="list-style-type: none"> ・行動科学理論のそれぞれの特徴と有効性を理解し、行動変容を促す支援等保健指導に活用するイメージが持てる |
| 9/15 | 水 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 松岡 真紀子 助教 | 健康相談の実際 高齢者を対象にした健康相談のロールプレイ <ul style="list-style-type: none"> ・限られた情報から健康課題と支援の優先順位を整理できる ・地区組織等の活用を含め、対象者への支援方法を提案できる |

| | | | | | |
|------|---|---|----------|--|---|
| 9/17 | 金 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 家庭訪問の展開5 母子事例の継続訪問のロールプレイ ・継続課題の理解や対応のためにコミュニケーション技術・行動科学理論を意識的に用いることができる ・地域の社会資源を活用して保健指導できる ・家庭訪問の相互評価ができる |
| 9/17 | 金 | 4 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 家庭訪問の展開6 母子事例の継続訪問のロールプレイ ・継続課題の理解や対応のためにコミュニケーション技術・行動科学理論を意識的に用いることができる ・地域の社会資源を活用して保健指導できる ・家庭訪問の相互評価ができる ・訪問結果を簡潔に分かりやすく記録できる |
| 9/24 | 金 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 健康教育の展開3 企画書・保健指導案の作成（グループワーク） ・対象集団の健康課題に対する教材研究から健康教育の企画書・保健指導案が作成できる ・対象者が良い保健行動がとれるように行動科学理論を活用できる |
| 10/4 | 月 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 健康教育の展開4 教育媒体の作成（グループワーク） ・健康教育の目標達成のために教育媒体を工夫し作成できる |

| | | | | | |
|------|---|---|----------|--|--|
| 10/5 | 火 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 健康教育の展開5 教育媒体の作成(グループワーク) ・健康教育の目標達成のために教育媒体を工夫し作成できる ・健康教育のデモンストレーションを行い修正できる |
| 10/8 | 金 | 3 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 健康教育の展開6 健康教育の実施・評価 ・グループで保健指導案に基づき健康教育を実施できる ・対象者役の反応を捉え評価できる ・他のグループの健康教育の展開を評価できる |
| 10/8 | 金 | 4 | 地域包括ケア講座 | 大澤 扶佐子 准教授 岩渕 光子 特任准教授 藤原 弥生 助教 松岡 真紀子 助教 藤澤 純子 助教 | 健康教育の展開7 健康教育の実施・評価 ・グループで保健指導案に基づき健康教育を実施できる ・対象者役の反応を捉え評価できる ・他のグループの健康教育の展開を評価できる |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-----------------------|----------------------|------|------|
| 教 | 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第4版 | 中村 裕美子 他 | 医学書院 | 2020 |
| 教 | 医療における社会・行動科学 | 相澤 文恵 | 永代印刷 | 2019 |
| 教 | 母子健康手帳 | 岩手県保健福祉部子ども子育て支援課(監) | 吉田印刷 | 2021 |
| 参 | 保健師必携 こう書けばわかる! 保健師記録 | 永江 弘子 他 | 医学書院 | 2004 |
| 参 | 母子保健マニュアル | 高野 陽 他 | 南山堂 | 2010 |

・成績評価方法

定期試験 60%、家庭訪問演習 20%・健康教育演習 20% 合計 100%にて評価する。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、関連する教科書および配布資料を読み、事前・事後学修を行うこと。最低 30 分以上の事前事後学修を要する。健康教育の演習はグループで行うので、各グループで学修時間を確保すること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レスポンスカード、家庭訪問の記録類、健康教育の企画書・保健指導案は、適宜コメントを伝えフィードバックする。演習の評価は、評価票に基づく評価と学生間のピア評価を行い、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|-----------------------------|----|--------------------------|
| 演習 | プロジェクター（VPL-FWZ60） | 1 | 講義用スライド投影 |
| 演習 | 書画カメラ（P-100） | 1 | 講義用資料投影 |
| 演習 | 訪問鞆一式（消毒薬、血圧計、メジャー、エプロン等含み） | 5 | 家庭訪問の必要物品の扱い方を理解するため |
| 演習 | 折り畳 | 6 | 家庭訪問の場面設定 |
| 演習 | 乳児実習モデル | 5 | シミュレーターを活用した身体計測技術の修得のため |
| 演習 | 乳児用体重計 | 5 | 乳児の身体計測技術の修得のため |
| 演習 | 健康教育関連機材 | 一式 | 健康教育の教育媒体作成 |